

## 平成28年度 第1学期終業式 式辞

1学期が終わりました。3年生の諸君は、毎日毎日を、一つ一つの行事を「これが高校生活最後」と思って取り組んでいるのではと思います。特に文化祭では、しっかり県宝の伝統をひとつまた積み上げてくれました。「県宝の～」というあの声が聞こえてくると、いつの頃から始まったのか、かなり前からの習慣のようですが、このようにして伝統とか文化とか学校の空気が作られていくのだと思いました。夏休みも高校生最後の夏休みです。進路実現に向けて集中して最後までふんばれるように、この夏休みの取組み具合によって、それは大きく変わってくるはずです。やりきってください。

さて、劇といえば、今度は皆さん一人一人が自分の物語を紡いでいかなければなりません。1年生、2年生の皆さんにも言えることですが、一人一人がヒーローでありヒロインになるわけです。私たちは物語を生きています。心の台本を持っています。何かの場面で自分がどう感じ、どのように判断して行動するか、心の台本に従っているのです。何か失敗をしたり人を傷つけてしまうようなことをしてしまったら、自分の弱い心やずるい心を反省して、また同じようなことが起こったときには注意して考えて行動できるようになります。何かに成功して、充実感を味わったり幸せだと感じると、心が喜んで、またその気持ちを味わおうとします。このようにして自分の人生を生きていっているわけです。色々な経験を積んでいくとその台本にも深みがでできます。自分とは違う事柄も受け入れることができるほど自分の心は広がっていきます。

今年は、1年生のオリエンテーション合宿で、お話する機会がありました。皆さんの意見や思いを聞くことができました。皆さんが、自分のこういう所を変えたい、こんなことを学びたい等たくさんの意見を言ったり書いたりしてくれました。生き方について悩んでいることや考えていること、いろいろな思いもわかりました。どの生徒もみんな自分が良くなりたいと思っていることもよくわかりました。

昨年の1年生の諸君の各クラスでは、読み物のプリントを使っていろいろ考える授業をしました。そういう皆さんの振り返りシートの中で、「小説を読んでみたくなった」という感想を書いている生徒が複数いました。結構多くいました。皆さんの自然な心の揺れを私も感じました。劇と一緒に、自分とは違った人生や世界を味わう楽しみがあるからだと思います。劇で他の人を演じると自分とは違う人生を生きることができる楽しさもありますが、自分の心の栄養にもなっているのです。

普段はなかなか時間がとれないかもしれません。夏休み中に読書によって人生の疑似体験をしてみたいと思います。3年生の諸君も、うまく取りかかれない時や心が安定しない時には、本を読んでみるのもいいかもしれません。テレビやインターネットなどの映像ではなく、活字から頭の中で場面を想像することで、自分で自分を落ち着かせることができるように、読書を活用してみたらどうでしょうか。

それでは、健康と安全に気をつけて夏休みを過ごしてください。そして、9月1日の始業式には、全員が元気に登校してください。

以上で1学期終業式の式辞とします。